

ハンズオンセミナー 3  
『今さら聴けない皮膚病理の所見やサイン』

11月13日(土) 13:00~15:00 ハンズオン会場② 42F(本館) 富士

**企画書・演者**

安齋 真一 (日本医大武蔵小杉病院)

**チューター**

荻田あづさ (日本医大武蔵小杉病院)

伊東 慶悟 (日本医大武蔵小杉病院)

石原 優里 (日本医大武蔵小杉病院)

深山麻衣子 (東京大)

武藤 律子 (聖母病院)

馬場 裕子 (東京歯科大付属市川病院)

木下 侑里 (日本医大武蔵小杉病院)

**開催日時**

11月13日(土) 13:00~15:00

**テーマ**

今さら聴けない皮膚病理の所見やサイン

**対象**

初心者から専門医レベルまで

**目的**

皮膚病理診断においては、診断の手がかりとなる数々の所見や、いわゆる『サイン』が知られている。しかし、その名前は知っていても、実際の標本の中でその所見やサインを同定することはしばしば困難である。今回のセミナーでは、わかっているようでわかっていない所見や『サイン』を、実際の標本で確認してもらうことを目的とする。

**内容**

重要あるいは有名ではあるが、案外きちんとした所見としてみることの少ない、炎状構造、Miescher放射状肉芽腫、Pautrier微小膿瘍、チェッカーボードサインなど、おおよそ20の皮膚病理診断における重要な所見や『サイン』を取り上げる。講演で、それらの見え方のポイント、皮膚病理診断における重要性や意義を説明しながら、実際の標本(バーチャルスライド)を観察し、その中でそれらを確認してもらう。